

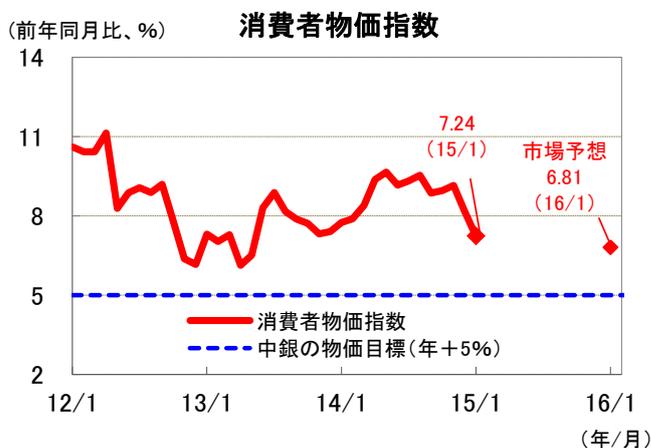
## 今日のトピック トルコの物価動向と金融政策

# 物価上昇率は低下も、臨時利下げを見送り

### ポイント1 物価上昇率は低下傾向

市場は下げ渋りと予想

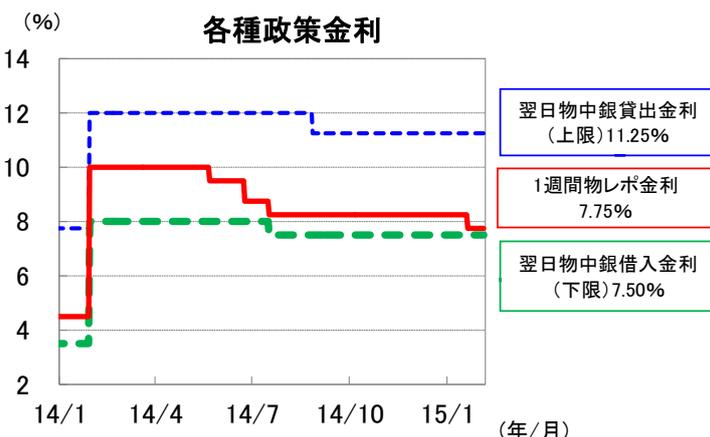
- 1月の消費者物価指数は前年同月比+7.24%と、昨年5月の同+9.66%を直近のピークに低下傾向にあります。
- トルコ中央銀行(以下、中銀)は、これまでの金融引き締め策や原油安などから、今年半ばには目標(年+5%)近くに低下すると予想しています。
- 一方、中銀の調査による市場予想は、来年1月に同+6.81%と、中銀の予想よりも高い水準にあります。トルコリラの下落による物価上昇圧力への懸念などが背景とされます。



### ポイント2 中銀は1月に利下げを再開

臨時利下げは見送り

- 中銀は1月20日、主要な政策金利である1週間物レポ金利を0.50%引き下げ7.75%としました。中銀は、昨年1月にリラの安定化を狙い、各種政策金利を大幅に引き上げ、その後は利下げによる金利水準の正常化を進めています。
- なお、中銀は1月の物価が落ち着くのであれば臨時会合を開き、利下げを実施するとの考えを示していましたが、臨時会合の開催を見送りました。食品やエネルギーなどを除く基調的な物価上昇率が1月も前年同月比+8.63%と高かったことなどが背景と見られます。



(注) 消費者物価指数は2012年1月～2015年1月。  
市場予想は、トルコ中央銀行が2015年1月16日に発表した調査結果。  
各種政策金利は、2014年1月1日～2015年2月5日。  
(出所) Bloomberg L.P.、トルコ中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 中銀は追加利下げを慎重に進めると見られ、高金利がリラを下支え

- 足元では、トルコの追加利下げ観測や米国の利上げ観測などから、リラが米ドルや円に対して下落傾向にあります。市場の物価見通しは、リラ安による上昇懸念と原油安による低下期待の両方に影響され、振れやすい状況です。
- 市場の物価見通しが不安定ななか、中銀は追加利下げを慎重に検討すると見られます。リラは不安定な動きが当面続くことも想定されますが、高金利が下支えになりそうです。次回会合は、2月24日に予定されています。

### ここもチェック!

2015年02月02日 先週のマーケットの振り返り(2015/1/26-1/30)  
2015年01月21日 トルコの金融政策(2015年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。